

淡路花博25周年記念花みどりフェア 基本計画検討資料

1 花みどりフェア基本計画 構成案

区分	今回案 (2025)	参考 前回 (2020)
I	全体概要 1. 開催概要 2. これまでの歩み 3. 淡路島を取り巻く環境の変化とフェアの方向性 4. 開催理念とテーマ 5. 推進体制 検討議題 1～3	全体概要 1. 開催概要 2. 開催理念 3. 開催理念と展開 4. 推進体制 5. 会場について 6. メイン会場の考え方
II	会場 1. メイン会場 2. サテライト会場	会場 1. 秋期 メイン会場 2. 春期 メイン会場 3. サテライト会場
III	展示・行催事計画 1. 基本的な考え方 検討議題 4	展示・行催事計画 1. 基本的な考え方 2. 主な展示・行催事一覧 3. 秋期 メイン会場での主な展示・行催事 (例) 4. 春期 メイン会場での主な展示・行催事 (例) 5. サテライト会場での主な展示・行催事 (例) 6. 全島を舞台とした行催事 (例) 7. 先端環境技術の発信 8. プレイベント 9. 県民参加催事の考え方
IV	交通輸送・運営計画 1. 各会場アクセス 2. 駐車場計画 検討議題 5	交通輸送・運営計画 1. 来場交通及び駐車場計画 2. 会場運営計画
V	広報計画 1. 基本概要	広報計画 1. 基本概要
VI	協賛・収益計画 1. 基本的な考え方 検討議題 6	協賛計画 1. 各種協賛内容及び獲得の考え方
VII	記載なし (広報計画等に統合)	誘致活動計画 1. 基本概要 2. パスポート企画 3. 観光ICTシステムの検討 4. キャッシュレス環境整備の検討
VIII	推進スケジュール 1. 推進スケジュール	推進スケジュール 1. 推進スケジュール

2 開催概要

開催趣旨

(淡路島を取り巻く環境やフェアの方向性、理念やテーマを検討したうえで、総論として記載)

開催テーマ

(5「開催理念と開催テーマ」で検討)

開催概要

名称	淡路花博25周年記念 花みどりフェア2025
期間	令和7年3月20日(祝)～4月27日(日)〔30日間〕
メイン会場	島内3市 ①淡路会場：淡路夢舞台、国営明石海峡公園 ②洲本会場：洲本市中心市街地 ③南あわじ会場：イングランドの丘
主催	淡路花博25周年記念事業実行委員会
来場者数	約75万人(メイン会場のみ)

3 これまでの歩み

国際園芸・造園博 ジャパンフローラ2000 (淡路花博)

【開催意義】

- **緑ゆたかな地球環境の保全と創造**
- **阪神・淡路大震災の教訓**に学んだ安全で快適な新しい公園緑地の提案
- **花と緑を愛し育てることを通じて**人々に喜びと感動を与え、互いに参加・協力しあう**心豊かな地域社会づくり**
- 園芸・造園の知識と技術を集大成し、成果の展示と新技術の提案を行い、**園芸造園産業の発展と国際的な振興**をはかる。
- 震災復興のアピールと**世界都市・関西の形成への貢献**

【テーマ】 人と自然のコミュニケーション

環境	自然環境の保全・創出・回復・再生
理念	継承・発展 人と自然の共生の心の継承
	淡路からの発信 淡路島から新しい花みどり文化の発信



3回の花みどりフェアにより、淡路花博の理念を継承・発展

淡路花博2010 花みどりフェア

【テーマ】 人と自然の新たなコラボレーション

環境	地域から取組む新たな地球環境の創造
理念	継承・発展 人と自然の協働と豊かなところによる新たな共生空間の形成、継承・発展
	淡路からの発信 環境立島「公園島淡路」から新しい花みどり文化の発展

淡路花博2015 花みどりフェア

【テーマ】 人と自然の共生のステージ

環境	環境の世紀にふさわしい持続可能な社会の実現
理念	継承・発展 新たな時代の人と自然の共生の継承・発展
	淡路からの発信 全島あげての淡路島の新たな魅力の発信

淡路花博20周年記念 花みどりフェア

【テーマ】 みなとつながる「花 緑 食の島」淡路

環境	地域力の発揮による持続可能な社会の実現を先導
理念	継承・発展 「持続する環境の島」を次の世代へ継承
	淡路からの発信 潜在的な地域の魅力発信と世界との交流

4 淡路島を取り巻く環境の変化とフェアの方向性

淡路島を取り巻く環境の変化

これまでのレガシーの蓄積

- ジャパンフローラ2000の開催と、その後3回の花みどりフェアを通じて、花博の理念浸透
- 淡路島においては、**地域住民主体の「花・緑」に関する取組みが根付いている。**

SDGsへの関心の高まり

- 国際的なSDGsの機運向上
- 本県においても、ひょうご産業SDGs推進宣言事業などSDGsを推進
- 淡路島においても、カーボンニュートラルに資する廃材の活用など**SDGsの取組みを実践**

コロナ禍をきっかけとした地方回帰の流れ

- コロナ禍やデジタル化の進展により、東京一極集中の潮流が変化
- 淡路島に魅力を感じる、**企業・人材の流入**
- 西海岸には近年、多くの観光スポットがオープン

2025大阪・関西万博の開催

- 令和7年4月から2025大阪・関西万博が開催され、あわせて、淡路全島でAWAJI島博が開催される。
- 国内外から多数の観光客が訪れるこの機会を活かし、本県への来場者を増加させる「**ブースター機能**」を発揮

フェアの方向性

- ジャパンフローラ2000から四半世紀が経過し、その先導的な取組が地元に着してきたことから、今回を最後の花みどりフェアとする。
- これまで開催したフェアの理念を継承し、地域住民主体の「花と緑」の取組みを後世に伝える。
- 国際的なSDGsの機運向上等を踏まえ、淡路島におけるSDGsの取組みも積極的にPRする。
- 最後を飾る企画として、「花と緑」に関連するイベントに特化し、春期のみ重点的に開催する。
- 大阪関西万博による国内外からの観光客を本県に誘客する「ブースター機能」の役割を果たしていく。

【今回で最後のフェアとする理由】

- ・ジャパンフローラ2000から四半世紀が経過し、その先導的な取組が地元に着
- ・ジャパンフローラ2000の収益を活用した基金が減少
- ・ガーデンツーリズムなど新たなツーリズムの進展
- ・大規模イベントの実施から日常的・継続的な取組へのシフト

5 開催理念と開催テーマ

開催理念（タタキ台）

- 【環境】 SDGsに資する取組みの普及・先導
- 【継承・発展】 これまで培ってきた人と自然の持続的な共生のあり方をレガシーとして継承・発展
- 【淡路からの発信】 万博の機会を捉え、これまで育み、蓄積してきた取組みを国内外に再発信

開催テーマ（タタキ台）

サスティナブルな花と緑の島 AWAJI

検討議題 1

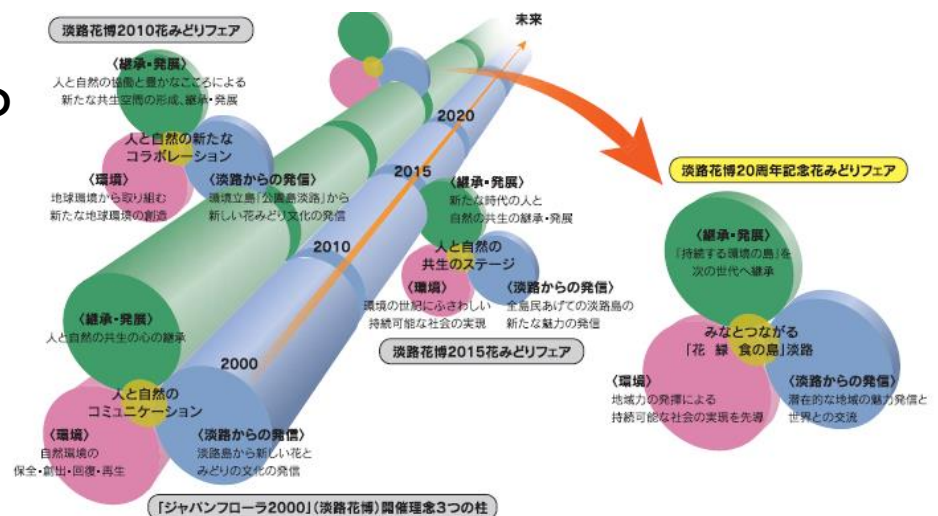
淡路島を取り巻く環境の変化とフェアの方向性について

検討議題 2

開催理念について

検討議題 3

開催テーマについて



6 参考 淡路島の状況

【花と緑】

○ 淡路島くにうみ協会の事業

- ◆ 淡路を担う人づくり
 - ・花づくり人材育成事業－花づくり講習会講師派遣事業－
 - ・花づくり人材育成事業－まちづくりガーデナー奨励事業－
- ◆ 花と緑豊かな環境づくり
 - ・「淡路花祭」の開催
 - ・花の札所推進事業（あわじ花へんろ）の実施
 - ・花街道づくり事業
 - ・冬咲きチューリップショー

○ 花き産業の現状

- （「ひょうご花き振興方策」（R2年度作成）ほか）
- ◆ 淡路島では1932年から花き栽培が始まる。
 - ◆ 淡路花き組合連合会の会員数は、1982年の1,092をピークに減り続け、2022年には195に激減
 - ◆ 淡路地域で栽培が盛んな品種（下線は県重要品目）

品種	ストック	キンセンカ	菊・小菊	バラ	カーネーション	鉢物 苗物
栽培戸数	18戸	65戸	165戸	7戸	54戸	7戸

【淡路島の農業における新たな取組み】

○ 取組み事例

- ◆ (株)パソナ農援隊による「チャレンジファーム淡路」事業の展開
- ◆ 南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産が小規模集落内で連携・循環する農業システムの構築
- ◆ 若手農業者グループ「(株)フレッシュグループ」による淡路島野菜やハーブの生産

【SDGsの取組み】

○ 淡路島におけるSDGsの取組み事例

- ◆ あわじ環境未来島構想
 - ・住民、NPO法人、企業、行政など、様々な主体が参画し、持続可能な地域社会モデルを生み出していこうとする取組
 - ・島のポテンシャルを活かし、「エネルギー」「農と食」「暮らし」の3つを持続させる取組みを島内全域で推進
 - ・国の地域活性化総合特区制度を活用（H23指定）

【地方回帰の流れ】

○ 淡路島における企業・人材の流入状況

- ◆ 淡路地域の工場新設届はR3以降7件(H30～R2は0)
- ◆ 飲食店の新規営業許可件数は増加傾向 (R2:157件→R3:211件→R4:198件)
- ◆ 淡路島への転入者数は増加傾向 (転入者等 R3:3,873人 → R4:4,917人)
- ◆ R4年度の社会増減が島全体でプラスに転じる。

【ブースター機能】

○ 淡路島主要観光8施設入場者数

(単位：千人)

区分	2015	2016	2017	2020	2021	2022
入場者数	3,413	3,169	3,100	1,851	2,284	3,255
前年度比	104.7%	86.0%	96.3%	59.2%	123.3%	142.5%

(出典) 淡路県民局『あわじの経済レポート』

7

参考 SDGs体験型地域プログラム 認定プログラム（島内分抜粋）

NO.	プログラム名称	応募者名称	主な活動市町
1	「日本文化×海体験」旅館が提供するGRAMラスな釣り体験で、 あなたも今日から日本と海が好きになる。	株式会社淡路島観光ホテル	洲本市
2	滞在型淡路島オリーブ体験プログラム	一般社団法人淡路島オリーブ協会	南あわじ市
3	沼島おのころクルーズ	沼島おのころクルーズ	南あわじ市
4	未来につなげる淡路瓦のモノづくり『淡路瓦ストーリー』	淡路瓦工業組合	南あわじ市
5	慶野松原 一來て・見て・学んで・楽しもうー	淡路島・慶野松原根上がり隊	南あわじ市
6	南あわじ市の日本農業遺産を未来につなげよう	サザンバード	南あわじ市
7	香りに愛された島、淡路島	兵庫県線香協同組合	淡路市
8	『地域資源活用・循環による「あわじ環境未来島構想」推進プログラム』	株式会社パソナ農援隊	淡路市
9	Art体験を通じ日本の伝統「淡路島の土壁」を芸術として世界に広める	近畿壁材工業株式会社	淡路市

8 展示・行催事計画の基本的な考え方

展示・行催事計画の基本的な考え方（タタキ台）

- ジャパンフローラ2000とその後3回の花みどりフェアの開催により育んできた理念を具体化する
 - これまでの地域住民主体の「花と緑」に関する取組や自生種の活用を後世に伝える
 - 淡路島の地域資源や観光資源を効果的に発信する
 - 島内で取り組まれているSDGsに資する取組みを積極的に取り入れ、人と自然の共生のあり方の事例としてPRする
 - 企画・立案・実施の検討過程で地域住民の協力を積極的に得る。中でも、地域の若者のアイデアを積極的に取り入れ、次代の魅力ある淡路島を担う人材の育成に繋げる
- ※ 事務局主催事業の他、各市主催事業、県民提案イベントを実施する

検討議題4

展示行催事計画の基本的な考え方について

9 広報計画の基本的な考え方について

広報計画の基本的な考え方（タタキ台）

- 「淡路花博25周年記念 花みどりフェア2025」を広く「知ってもらう」
花みどりフェアの開催と理念を幅広く周知するため、効果的な広報手段を検討し、国内外に発信
- 「淡路花博25周年記念 花みどりフェア2025」に「来てもらう」
花みどりフェアへの来場者を増やすため、ターゲットを特定して効果的な広報を実施

手段例：YouTube等のSNSや広報紙等の活用、既存ツアーへの追加

ターゲット例：花と緑のイベントに興味を持っておられる方、万博の来場者、旅行者

内容例：花・緑をはじめとする淡路島の地域資源や島内に点在する観光資源

検討議題5

広報計画の基本的な考え方について

10 協賛・収益計画の基本的な考え方について

協賛・収益計画の基本的な考え方（タタキ台）

- 花みどりフェアの企画の充実、効果的な事業実施のため、企業・団体等にもメリットとなる協賛を得る活動を実施する
- 加えて、広告収入やクラウドファンディング、イベント会場における出展料の徴収等、様々な方策を検討し、収益を強化する

（参考）前回の協賛形態

・資金または物品の提供、広報物への広告掲載、保有媒体での掲載協力など

検討議題 6

協賛・収益の基本的な考え方について